

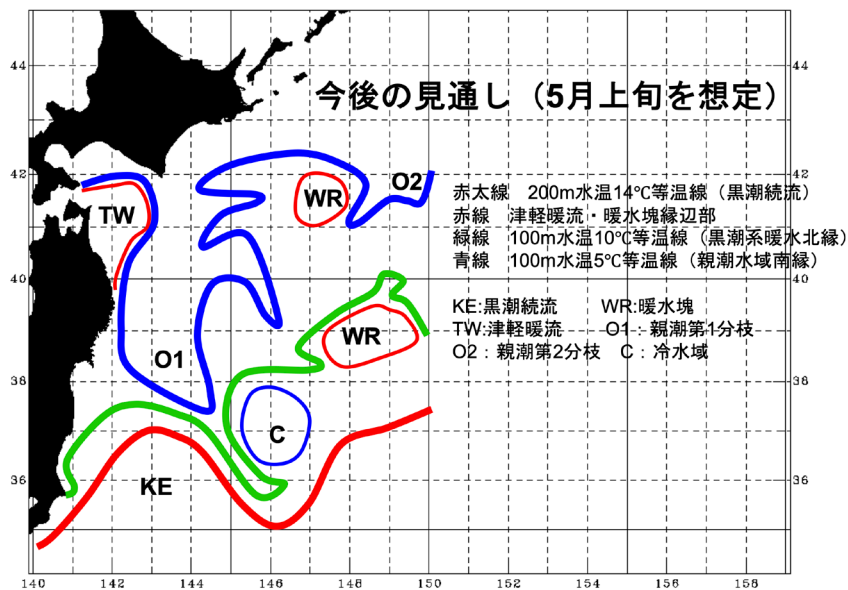


2022年度 第1回 東北海区海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2022年4月下旬～2022年5月)のポイント

- ・ 近海の黒潮統流の北限位置はやや北偏～かなり北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏～極めて南偏で推移する。
- ・ 下北半島沖の暖水塊は東に移動する。常磐沖に冷水域が形成される。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 上原
海洋環境部（塩釜） 川端、田中
電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2022年度東北海区海況予報 第1号

《今後の見通し（2022年4月下旬～2022年5月）》

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～かなり北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏～極めて南偏で推移する。下北半島沖の暖水塊は東に移動する。金華山沖に暖水塊ができ、北に移動する。三陸沖と常磐沖の冷水域は消滅し、常磐沖に新たに冷水域が形成される。

《海況の経過（2022年2月～2022年4月上旬）の特徴》

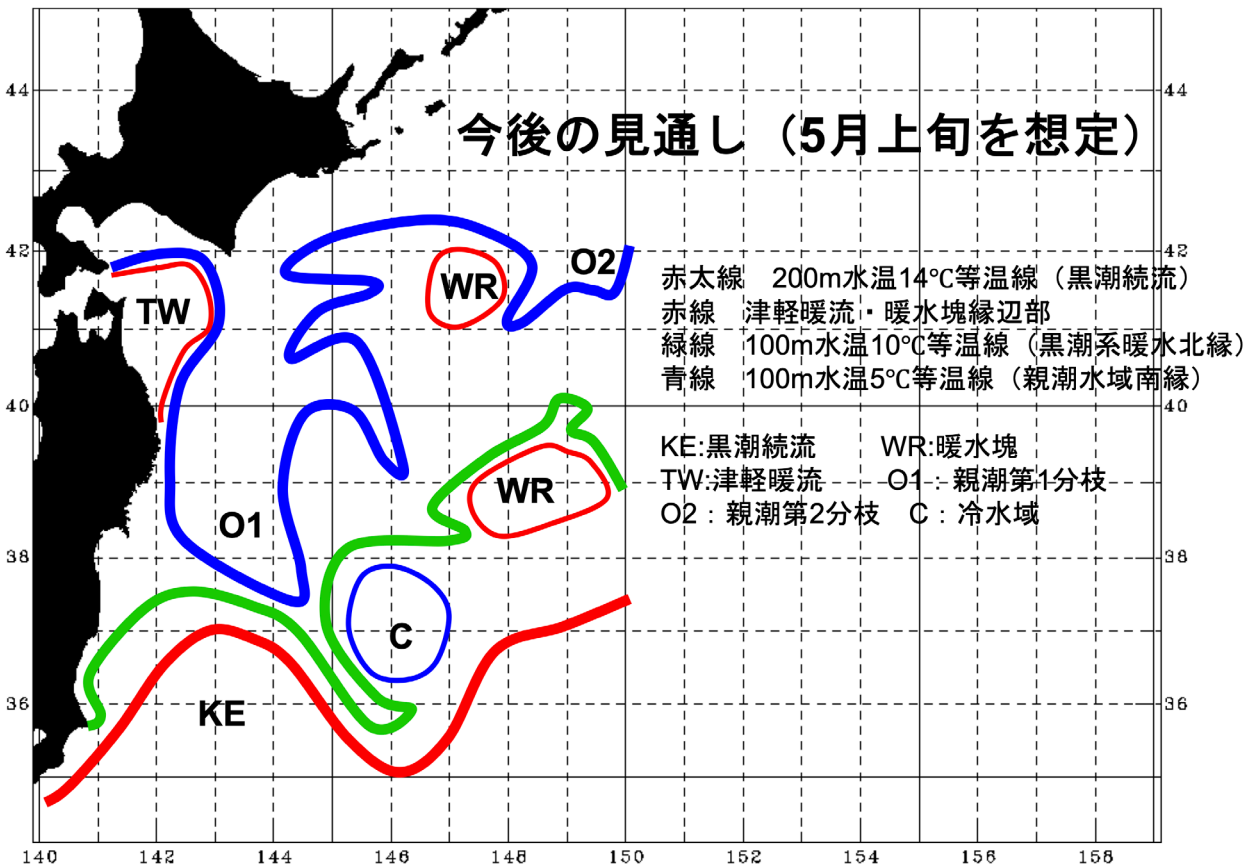
近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏～極めて南偏で推移した。三陸沖の暖水塊は北に移動した。

《現況（2022年4月中旬）の特徴》

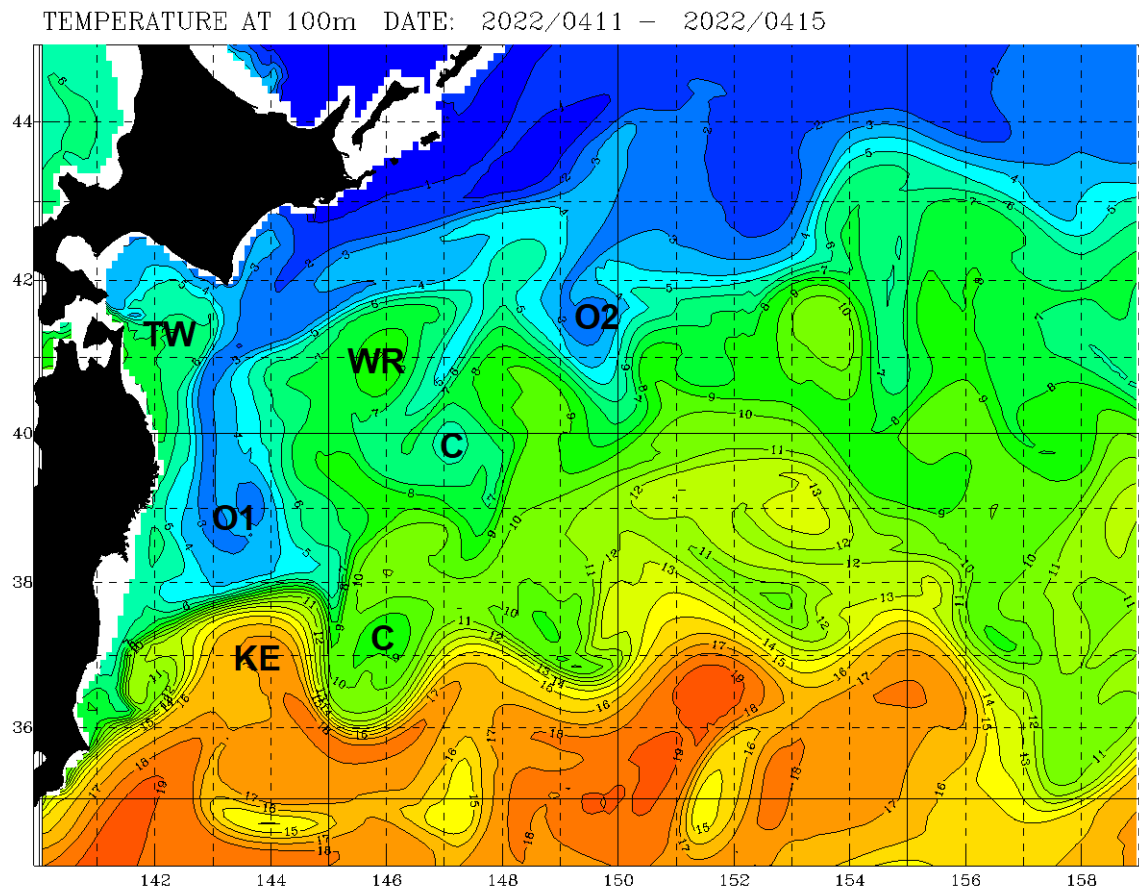
近海の黒潮続流の北限位置はかなり北偏、親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏である。暖水塊が下北半島沖にある。冷水域が三陸沖と常磐沖にある。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMS II システムを用いた。FRA-ROMS II は、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

5月上旬予測水温分布図



4月中旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------